

第 **46** 期 第 2 四半期

株 主 通 信

[2016年4月1日 ▶ 2016年9月30日]



■ ごあいさつ ■

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、第46期 第2四半期株主通信をお届けするにあたり謹んでごあいさつ申し上げます。

当期の業績

売上高	12,268百万円	前年比 2.4% 増	↑
営業利益	926百万円	前年比 13.5% 増	↑
親会社株主に帰属する 四半期純利益	589百万円	前年比 24.5% 増	↑



取締役会長
池田 典義

代表取締役社長
梶本 繁昌

第46期 第2四半期のご報告

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、株式市場の低迷や円相場の安定しない動きによる不安感があるものの、企業収益や雇用情勢は、緩やかな回復基調で推移しました。一方で海外経済の減速懸念により、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが属する情報サービス業界では、国内経済の先行き懸念があるものの、企業のIT投資需要は回復基調にあります。その中でもクラウドコンピューティングの普及拡大、IoT (Internet of Things:モノのインターネット)の推進、ビッグデータやAIの活用拡大など、企業の売上拡大や顧客サービス向上を目的とした競争力強化のためのIT投資への関心が一層高まっております。

このような環境下、当社グループは、多様化する顧客ニーズに的確に応え、システム開発需要に対応するとともに、データセン

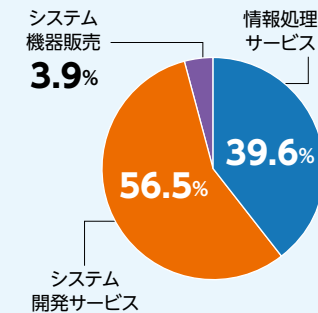
ターやクラウドサービスの商品力向上に注力してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、システム開発サービス並びに情報処理サービスが堅調に推移したことにより、売上高12,268百万円(前年同期比2.4%増)、営業利益926百万円(同13.5%増)、経常利益886百万円(同14.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益589百万円(同24.5%増)となりました。

配当につきましては、継続的な安定配当を基本方針としております。この方針に則り、当期の年間配当は、昨期から2円増配の、1株あたり36円を計画しており、中間配当金は18円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

サービス区別売上高



情報処理サービス

売上高	4,862百万円
売上構成比	39.6%
前期比	2.6%増

システム開発サービス

売上高	6,923百万円
売上構成比	56.5%
前期比	1.1%増

システム機器販売

売上高	482百万円
売上構成比	3.9%
前期比	23.8%増



中間期6期連続の増収と過去最高益達成

■ 中間期の業績について ■

当第2四半期業績は、売上高が6期連続の増収となる122億円(前年比2.4%増)、利益面も営業利益は9.2億円(前年比13.5%増)、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益ともに過去最高益を更新することができました。この結果は、偏に社員全員の頑張りや株主様の温かいご支援の賜物であると感謝しております。この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、この好調な業績は、当社グループが注力しておりますデータセンターやクラウドサービス、並びにシステム開発分野において、お客様との直接取引を積極的に推進し、幅広い業種業態のお客様から多数の案件を獲得したことによります。

これらは、当社グループが継続して取り組んでまいりました3つの事業方針の「エンドユーザー志向」、「ストックビジネスの拡大」、「変化と進化」がグループ全体に浸透する中で、お客様との接点がさらに増し、収益率の高いストックビジネスへ誘導することで、成長力と収益力が両面で強化された結果、安定成長につながっていると考えております。(安定成長の要因は5ページQ&Aに掲載しております。是非ご参照ください。)

■ 今後の市場環境や通期業績見通しについて ■

企業のIT投資マインドは改善し、2020年の東京オリンピックに向け市場はさらに拡大を続け、高い水準で推移していくものと思われます。最近話題の自動車の無人運転に代表される様に、ITの世界はかつてないスピードで技術が進化しており、私達の身の回りに大きな変化をもたらそうとしています。企業は、IoTやビッグデータ、AIなどのテクノロジーを活用し、ビジネスに革新を起こしていくことで、更なる成長や生き残りに取り組んでいます。

当社グループも、これらの企業ニーズに応えるために、システム構築、データセンタービジネス、クラウドサービスなどに、これまで以上に注力することで、業績を着実に伸長させることができると考えております。以上のことから、今期(46期)の通期連

結業績は、データセンタービジネスとクラウドサービスの収益を拡大させるとともに、システム開発サービスやSSなど、既存ビジネスも伸ばしていき、売上高は257億円(前年比5.2%増)、営業利益20.5億円(同6.8%増)、経常利益19.5億円(同6.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益12.8億円(同14.8%増)を予想しております。

最後になりましたが、引き続き、安定した高収益企業を目指し、グループ一丸となり邁進していく所存であります。株主の皆様におかれましても今後とも変わらぬご支援を賜ります様、お願い申し上げます。

46期通期 業績予想	売上高	257億円 (6期連続増収)
	営業利益	20.5億円 (最高益更新)
	経常利益	19.5億円 (最高益更新)
	親会社株主に帰属する当期純利益	12.8億円 (7期連続増益&最高益更新)

Q.1 安定成長の要因を教えてください。

A データセンターを活用し、様々なサービスをお客様に提供することで、ストックビジネスを拡大し、安定した業績を継続しております。

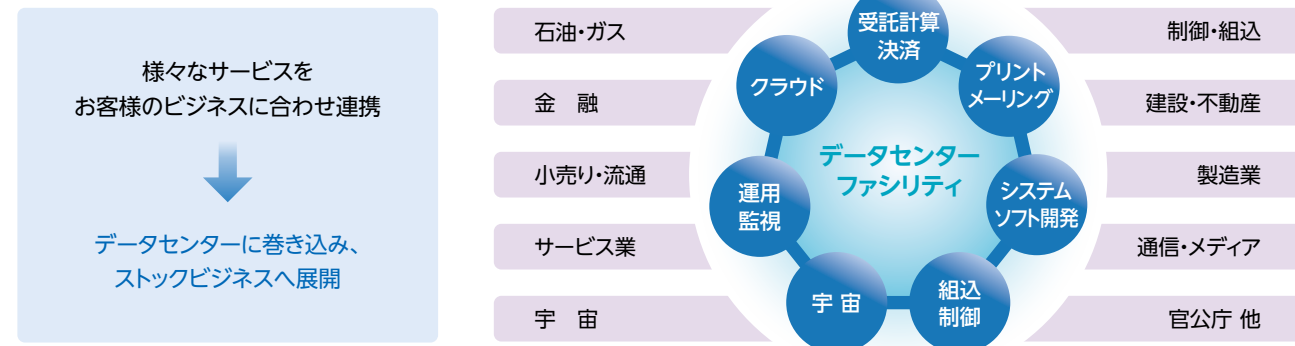
当社グループのビジネスは、データセンターを活用し、その周りを創業ビジネスであるガソリンスタンドの決済業務やプリント・メーリング、システム開発、クラウドサービスなど、様々な事業体が、有機的に連携して取り巻いております。これらは事業単体での営業推進のみならず、各々がクロスセルを行い、また、設備などのリソースを共有化することで、相乗効果を発揮し、収益を拡大しております。

当社では、データセンターを活用した情報処理サービスをストックビジネスと呼んでおります。これらは継続契約型ビジネスであり、長期間安定して売上が計上できることが特長で、経営基盤の安定に繋がります。一般的には設備投資などの先行投資が必要となりますが、人的リソースにあまり依存せずサービ

ス提供が可能であるため、一人あたりの売上・利益が増え、安定的な成長が見込めます。当社では長年このストックビジネス分野の拡大に注力をしてきました。

また、お客様のコンピュータ・システムを設計・構築するシステム開発サービスを当社ではフロービジネスと呼んでおります。これらは、一度に大きな金額の売り上げを獲得できることが特長です。一般的なシステム会社は大手メーカーの下請仕事を中心ですが、当社はお客様と直接取引することを推進しております。直接お客様と接することで、お客様のニーズを知り、信頼関係を構築することで、データセンタービジネスなどのストックビジネスへの誘導を推進し、さらに安定した利益を積み上げております。

[アイネットのビジネスモデル]



Q.2 ドローン事業へ参入した理由について教えてください。

A データセンター、クラウドサービスでの技術力や運用力の強みを活かせるとともに、将来のビジネスの柱となる可能性がある急成長分野だからです。

小型無人航空機「ドローン」は、「空の産業革命」と呼ばれ、災害の調査や工事現場の測量などで活躍する他、宅配や防犯などに活用するなど、近い将来には多くの企業が利用していくと考えられています。

当社は、ドローンの専門事業者ではありませんが、小型カメラやセンサーを搭載したドローンが収集した画像データや測量データなど膨大なデジタルデータを「ビッグデータ」として蓄積・保管できるデータセンターを保有しております。今後は、当社が長年蓄積した組込み制御技術を活用したセンサーなどデバイス開発や、データセンターに蓄積した様々なデータを分析・解析し、

お客様のビジネスに活用して頂けるようなサービス提供を行う予定です。当社はこの様な先進的なビジネスにも取り組みを始めております。



Q.3 株式分割を行った目的について教えてください。

A 当社株式の流動性と、更なる株主還元の向上を目的に実施いたしました。

当社は2016年10月1日付をもって、当社普通株式1株を1.1株に分割いたしました。これは、株式分割を行い、投資単位当たりの金額を引き下げることにより、より一層投資しやすい環境を整えることで、当社株式の流動性の向上と投資家層の拡大を図ることを目的としております。

また、この株式分割に伴う配当金の調整は行わず、期末配当

を18円で据え置いておりますので、実質増配となる予定です。今後とも、当社株式を末永く保有していただければ幸いです。ごぞいます。

株式分割
1 : 1.1

■ 連結財務諸表の概要 ■

[損益の概要]

	前 第2四半期累計期間 (2015/4/1 ~ 2015/9/30まで)	当 第2四半期累計期間 (2016/4/1 ~ 2016/9/30まで)	増減額
売上高	11,975	12,268	ポイント1 292
売上総利益	2,683	2,888	204
営業利益	816	926	ポイント2 109
経常利益	775	886	110
親会社株主に帰属する四半期純利益	473	589	116

[資産・負債の概要]

	前期末 (2016/3/31現在)	当 第2四半期末 (2016/9/30現在)	増減額
流動資産	8,593	8,903	ポイント3 310
固定資産	16,516	16,610	93
流動負債・固定負債	13,316	13,290	△26
純資産	11,793	12,223	ポイント4 430
総資産	25,110	25,514	403

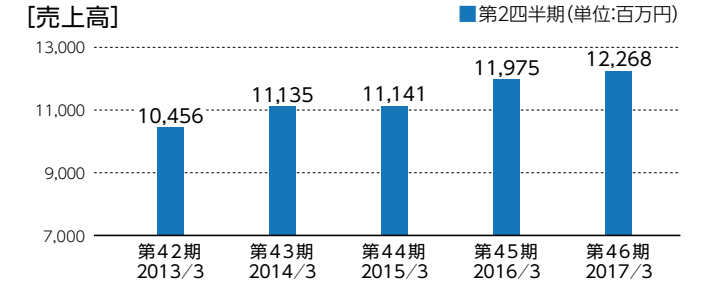
[キャッシュ・フローの概要]

	前 第2四半期累計期間 (2015/4/1 ~ 2015/9/30まで)	当 第2四半期累計期間 (2016/4/1 ~ 2016/9/30まで)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	435	ポイント5 1,159	723
投資活動によるキャッシュ・フロー	△222	△464	△242
財務活動によるキャッシュ・フロー	△197	△707	△509
現金及び現金同等物の期首残高	2,533	2,696	162
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,549	2,684	134

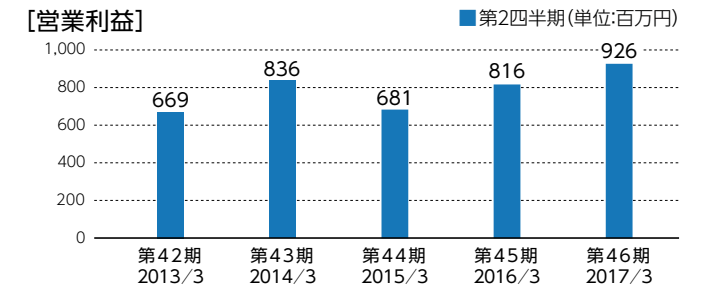
[決算数値のポイント]

- ポイント1** 金融業向けのシステム構築が堅調であったこと、また、データセンターやクラウドサービスも新規顧客を中心に売上げを伸ばした結果、売上高が292百万円増加となりました。
- ポイント2** システム開発サービス、情報処理サービスともに売上高が増加したことにより、販売費及び一般管理費の増加を吸収し、営業利益は13.5%増の109百万円増加し過去最高益を更新しました。
- ポイント3** 売掛金の増及び下期納入予定案件に伴う仕掛品の増により、310百万円増加しました。
- ポイント4** 利益剰余金が343百万円増加したこと、また、株式市況の影響でその他有価証券評価差額金が93百万円の増加があり、430百万円増加となりました。
- ポイント5**
 - [営業活動によるキャッシュ・フロー] 利益および減価償却による内部留保で1,586百万円増加しました。一方で法人税等の支払額が487百万円があり、1,159百万円の獲得となりました。
 - [財務活動によるキャッシュ・フロー] 有利子負債の削減285百万円、リース債務の返済159百万円、および配当金支払245百万円等を実施したことによるものです。

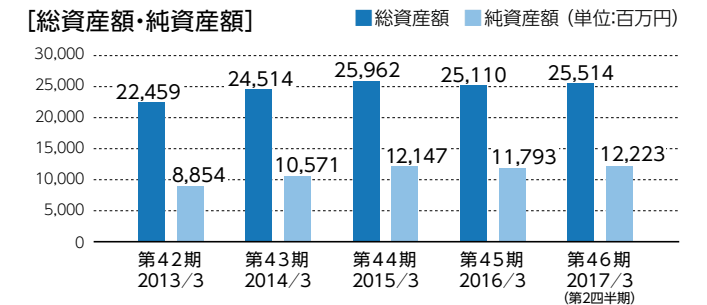
[売上高]



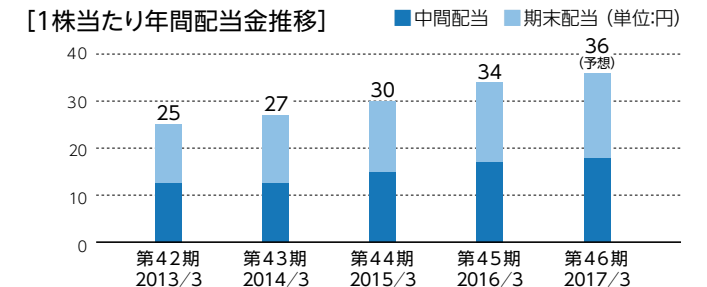
[営業利益]



[総資産額・純資産額]



[1株当たり年間配当金推移]



※2016年10月1日付で株式分割を行っておりますが、分割の影響を調整せず、配当実績(予想)で記載しております。

株主の皆様に必要なIR情報を公開しております。
財務諸表の詳細はこちらでご確認ください。

www.inet.co.jp/ir/

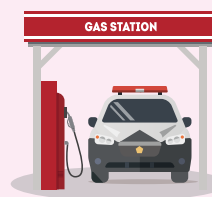
アイネット IR

検索

トピックス

主な活動をご報告致します。

4月 官公需カードシステム稼働



神奈川県石油業協同組合様が神奈川県警察本部との間で運用する「警察車両向けカードシステム」を納入しました。当社の技術力を駆使し、短納期でサービス提供を開始致しました。

6月 定時株主総会と事業説明会



第45回定時株主総会を横浜ベイホテル東急で開催致しました。総会後の事業説明会では、社長の梶本より業績概況ならびに事業戦略の説明を行い、株主の皆様にご理解を深めていただきました。

7月 創立45周年の感謝の集い



1971年に前身である株式会社フジコンサルトを設立してから現在に至るまで、お世話になった各界からのお客様をお招きし、横浜ロイヤルパークホテルにて「創立45周年 感謝の集い」を開催致しました。

2016 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月

7月 「Dream Cloud Seminar2016」開催



7月5日に当社のクラウドサービスについてご紹介するセミナーを開催致しました。当日は次世代クラウドプラットフォームサービス「Next Generation EASY Cloud®」の紹介やドローンのデモなどを行い、多くのお客様に当社ビジネスにご興味を持って頂きました。

7月 女性活躍推進への寄付で神奈川県と横浜市から感謝状受領



黒岩知事と会長



林市長と社長

創立45周年の節目の年に、女性の活躍推進の一環として、地元である神奈川県と横浜市に寄付を行い、感謝状を頂きました。

7月 ラジオNIKKEI 出演



ラジオNIKKEI「この企業に注目! 相場の福の神」に、社長の梶本が出演し、当社の魅力を説明致しました。

9月 ドローン事業参入記者会見



近い将来には多くの利用が期待される「ドローン(小型無人航空機)」を活用した先進IoTプラットフォーム事業への参入について記者発表を開催致しました。

9月~10月 個人投資家向け会社説明会



個人投資家向け説明会を東京・大阪・名古屋の3都市で開催致しました。社長の梶本より当社の事業内容、ビジネスモデル、配当方針や社会貢献への取り組み等を説明し、個人投資家の皆様に理解を深めて頂きました。

会社の概況 (2016年9月30日現在)

商号 株式会社アイネット/I-NET CORP.
 上場金融商品取扱所 東京証券取引所市場第一部(9600)
 本社 横浜市西区みなとみらい三丁目3番1号
 電話番号 (045)682-0800(代表)
 URL www.inet.co.jp/
 設立 1971年4月22日
 資本金 3,203,992,690円
 従業員数 1,336名(連結)/895名(単独)
 事業内容 情報処理サービス
 システム開発サービス
 システム機器販売

役員
 取締役会長 池田 典義
 代表取締役社長 梶本 繁昌
 専務取締役 田口 勉
 常務取締役 坂井 満
 常務取締役 鰐 浩
 常務取締役 佐伯 友道
 取締役 内田 直克
 取締役 石神 哲
 取締役 立島 直記
 取締役 浅井 紀代子*1
 取締役 竹之内 幸子*1
 常勤監査役 本村 晴樹*2
 監査役 大野 和彦
 監査役 大橋 秀夫*2
 監査役 田下 佳彦*2

*1…社外取締役 *2…社外監査役

子会社
 株式会社ISTソフトウェア
 www.ist-software.co.jp/
 資本金 608百万円
 事業内容 情報処理サービス
 システム開発サービス
 システム機器販売
 株式会社アイネット・データサービス
 (特例子会社)
 www.inet-d.co.jp/
 資本金 9百万円
 事業内容 情報処理サービス

【特例子会社】「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、企業が障がい者の雇用に特別に配慮し設立した子会社で、一定の条件を満たしているとの厚生労働大臣の認定を受けた会社をいいます。

社会貢献活動

当社グループは、地域での雇用創出や開催イベントへの協賛、文化芸術振興への支援や災害支援を中心に積極的に社会貢献活動を行っております。

障がいのある方の自律を支援

当社グループは、障がい者雇用の促進を目的に特例子会社の株式会社アイネット・データサービスを設立し、障がいのある方が「自立・成長・自律」できるよう支援を続けております。

アイネットデータサービスの経営理念

自立そして自律

自立 成長 自律

女性活躍への取り組み「かながわ女性の活躍応援団」

女性が活躍するための取り組みに積極的で、神奈川にゆかりの深い企業のトップと神奈川県知事によって誕生した応援団であり、性別に関係なく働き続け、個性と能力を発揮できる社会の実現に向けて、社会全体で女性の活躍を応援する機運を高めていくことを目的としております。当社は、結成時から団員として選ばれており、これからも女性活躍推進のための取り組みを行ってまいります。



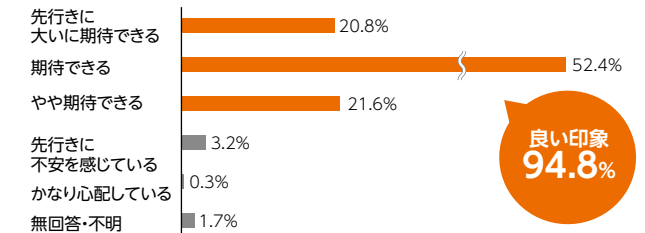
「かながわ女性の活躍応援団」全体会議

アンケート結果のご報告

株主様アンケートにご協力ありがとうございました

第45期株主通信に同封致しました株主アンケートに、多くの方からご回答をいただきました。その一部をご紹介します。

Q 当社の業績について、現在どのような見解をお持ちですか。



「先行きに大いに期待できる」、「期待できる」、など期待できるに属するご回答をいただいた割合は、94.8%となりました。5期連続で増収を達成したことや、トップインタビューを通じて成長への取り組みをご理解いただいた結果と考えております。

株主様からの貴重なご意見・ご要望は今後の経営並びにIR活動に生かしてまいります。

株式の状況 (2016年9月30日現在)

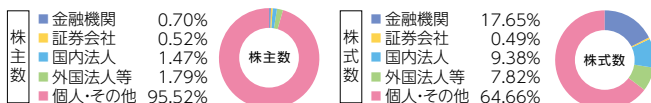
株主数	4,015名
発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	14,765,840株 ※1
大株主	

株主名	持株数(株)	持株比率(%)※2
池田 典 義	1,672,890	11.57
アイネット従業員持株会	1,283,415	8.88
北川 淳 治	710,300	4.91
株式会社横浜銀行 (常任代理人資産管理サービス信託銀行株式会社)	643,000	4.45
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS(常任代理人 香港上海銀行東京支店)	495,000	3.42
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	463,700	3.21
有限会社エヌ・アンド・アイ	287,980	1.99
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	255,100	1.76
日本生命保険相互会社	250,000	1.73
三菱総研DCS株式会社	217,800	1.51

※1 発行済株式の総数について…2016年10月1日付で株式分割を行っており、分割後の発行済株式の総数は16,242,424株となります。

※2 持株比率について……………自己株式を309,977株保有しておりますが、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別構成比



株式メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当 9月30日

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関

同 連 絡 先
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711(通話料無料)

上場証券取引所
公告の方法
東京証券取引所
電子公告により行います。
公告掲載URL
www.inet.co.jp/ir/stock.html/
(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた際には、日本経済新聞に公告致します。)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎ致します。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払い致します。

配当金

当社は、安定的な配当を継続して実施することを基本としており、今期で5期連続、増配を予定しております。

第46期
1株当たり
配当金 **36円** (予定)
(中間18円+期末18円)

株主優待制度のご案内

株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに、当社株式の魅力を高めることを目的に実施しています。

対象株主様 毎年9月末日時点で1,000株以上
保有いただいている株主様

優待内容 所有株式に応じて当社オリジナル
QUOカードを年1回(12月上旬)
お届け致します。

社会への貢献 贈呈額の10%を別途、当社より障
がい者支援団体等に寄付させてい
ただきます。

オリジナル
QUOカード



贈呈の内容

1,000株以上 3,000株未満	1,000円分
3,000株以上 5,000株未満	2,000円分
5,000株以上	3,000円分

更に3年以上継続保有の場合は、1,000円分の
QUOカードを追加

(商標について) 記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。